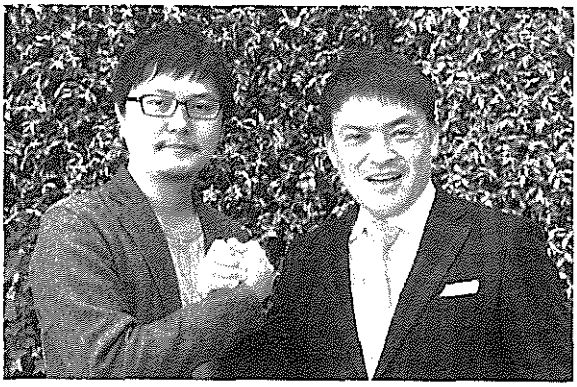
人工知能「センシー」に新機軸 需要を予測し、カスタマイズDMも



「センシー」を展開する渡辺祐樹カラフル・ボード社長と齋藤匡司TSIホールディングス社長

人工知能(AI)アプリ「センシー」を展開するカラフル・ボードは、新たにTSIホールディングスとはるやまホールディングス、小売り業向けITシステム企業ヴィンクスの3社を引き受け先にする、総額7億円の第三者割当増資を実施する。カラフル・ボードはすでに3社とそれぞれ、AIを使った需要予測やダイレクトメール(DM)のパーソナライズ化、店頭接客サービスなどを開発しており、出資を受け、そうしたサービスの開発を加速する。渡辺祐樹カラフル・ボード社長は「TSI社と組んで開発中の需要予測サービスには1社で100億円単位のコスト削減効果のポテンシャルがある」という。

カラフル・ボードは、2014年にファッション向けのAIアプリ「センシー」のリリースを皮切りに、コーディネートなどのファッション系のECサービスや店頭接客サービスの他、現在は食関連にもサービスを広げている。

TSIホールディングスとは昨年から、基幹システムのPOSデータとECサイトのデータベースから、顧客一人一人の購買データを「センシー」を使って分析し、SKU単位で需要を予測するMD最適化エンジンの開発に着手していた。「まだテスト段階だが、大きな手応えを得ている。ベテランの知識や経験に頼っていたMDだが、AIを使えばSKU単位で需要を予測できる。アパレル産業全体にも大きなインパクトがあると感じている」という。

一方、はるやまとは1万2000人を対象に、購買履歴をもとに一人一人にカスタマイズした商品を掲載するDMサービスを実施。現在は来店数が通常のDMに比べ1.5倍以上多くなり、売上高も2000万円増加したという。

カラフル・ボードは2011年に設立。現在の従業員数は20人で、そのうち約7割がAIの研究者やエンジニアだが、調達した資金を研究開発に投入し、今年度中に20人の従業員数を倍増させる。